

## 巻末資料

### 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の評価結果（高等学校教科担当教員の評価）

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されている。このことに照らし、令和8年度大学入学共通テスト（本試験）の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

#### 1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲<sup>※1</sup>）
- (3) 問題で使用される資料等<sup>※2</sup>が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定<sup>※3</sup>がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 地理歴史、公民における『地理総合／歴史総合／公共』及び理科における『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』は、一つの出題科目の中で複数の出題範囲を選択解答することとしているが、ここでは、その中での出題範囲を指すものである

※2 教科書で扱われていない初見の資料等を扱う場合、資料そのものに対する知識を問うのではなく、資料を活用して高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための題材として扱うことを前提としている

※3 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

#### 2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

（評定値）

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名 (出題範囲名)	『国語』
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、高等学校国語科における基礎的な学習内容の理解や思考力等を問う出題となっている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から出題されており、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	受験者の学習過程や高等学校における国語科の授業を想定した出題となっており、受験者の日々の学習や学校における授業改善に向けたメッセージ性のあるものとなっている。
(5)問題構成	3	本文や資料等の内容に応じた設問数や選択肢数が適切に設定されている。試験時間に対する文章量と配点のバランスについては概ね適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は素材文、選択肢群ともに適切である。
(7)難易度	4	様々な設問が組み合わされており、全体として難易度は適切である。
(8)得点のちらばり	4	全体として得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領において育成を目指す資質・能力の達成の程度を判定する試験問題として適切である。今後も、受験者の学習過程が重視され、かつ、問題の構成や場面設定等が工夫された出題を期待する。

科目名 (出題範囲名)	『地理総合，地理探究』
----------------	-------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り，資料から読み取って得た情報を基に考察する力，知識及び技能，探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	4	自然環境と生活文化，地域調査，自然環境と自然災害，衣料品類を事例とした産業，人口と都市，国際河川の流域が出題され，学習指導要領からバランスよく出題されている。
(3)題材	4	初見の資料も多いが，地理の学習で身に付ける知識及び技能や思考力を基に，地理的な見方・考え方を働かせて，考察したり推察したりする問題が多く，工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	3	第2問と第4問で生徒が探究する場面設定がなされ，特に第4問では，探究する過程を重視し，設問間のつながりを意識する工夫が見られる。一方で第2問では，設問間のつながりを重視し，より探究的な学習過程を意識した出題の工夫を期待したい。
(5)問題構成	4	出題のねらい，範囲，題材，場面設定ともに，バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	4	受験者に配慮した適切な表現や用語が用いられており，疑義が生じるような箇所は見られず，全体を通じて適切である。
(7)難易度	4	受験者にとって初見の資料が多く見られるが，全体的に地理的な見方・考え方を働かせて解くことのできる出題となっており，平均点も昨年度より高く，標準的な難易度である。
(8)得点のちらばり	4	高得点層はやや少ないものの，全体的に識別性が適切に機能していたと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたって，ねらい，出題範囲や題材，場面設定などの問い方，各観点ともに工夫され，バランスのよい出題である。引き続き，学習指導要領「地理探究」C(1)「持続可能な国土像の探究」を踏まえた様々な出題形式の在り方を期待したい。

科目名 (出題範囲名)	「地理総合」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識及び技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランスよく問われている。
(2)出題範囲	3	自然環境と生活文化、地域調査、自然災害と防災、地球的課題など、偏りなくバランスの良い出題である。自然災害と防災では、学習指導要領の「地理総合」C(1)の目標や内容との対応が見出しにくい設問が見られる。
(3)題材	4	「地理総合」の授業で扱われるオーソドックスな題材や資料だけでなく、初見の資料も多く、工夫された出題となっている。
(4)問題の場面設定	3	第2問では、生徒が自ら地域調査を進める場面設定がなされているが、設問間のつながりが見えにくく、学校現場の探究的な学習展開に沿った出題の工夫を期待したい。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	4	受験者に配慮した適切な表現や用語が用いられており、疑義が生じるような箇所は見られず、全体を通じて適切である。
(7)難易度	4	資料から読み取った情報を基に、知識及び技能、地理的な見方・考え方を働かせて考察、分析する設問が多く、難易度のバランスも適切である。
(8)得点のちらばり	4	全体として識別性が適切に機能していたと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全般にわたって、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などについて、問い方、難易度等、各観点ともに工夫されており、バランスの良い出題となっている。

科目名 (出題範囲名)	『歴史総合，日本史探究』
----------------	--------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連等について，多面的・多角的な視点で考察するねらいが明確であった。各設問からは，知識に偏ることなく，諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	3	出題分野に関しては，政治史，社会・経済史，外交史，文化史のバランスが図られていた。「歴史総合」分野で近代史を範囲にしているためか，「日本史探究」分野での近代史（明治期，大正期）の出題が少ない印象を受けた。
(3)題材	4	歴史的事象についての考察を深める資料として，写真や文字資料，統計資料などが工夫されて用いられていた。現代的な諸問題に関する題材も活用されており，歴史的事象と現代を結び付けて考察する視点の重要性を，高等学校の歴史教育に示唆していると思われる。
(4)問題の場面設定	4	全ての大問で学習指導要領が求める高校生の主体的な学習活動に沿った場面が設定されていた。「日本史探究」分野では，学習指導要領で示されている，生徒が問いを立てたり，時代を通観したりする学習場面を設定するものもあった。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	3	解答に際して特に難解と感ずる表現・用語は見られなかった。多くの資料が現代語訳されて，かつ丁寧な説明が記載されていることで，受験者にとって扱いやすかったと思われる。一方で設問文や資料の文字量が多い印象があり，受験者の負担になる懸念を感じた。
(7)難易度	4	総じて適正であったと言える。歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば，資料も扱いやすいため，難易度の極端に高いものではなく，解答は十分に可能であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	大きな部分において偏りは感じられず，おおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」を多様な資料を活用して問う工夫が見られ，高等学校の歴史教育における主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりの示唆を多分に含む内容であった。今後も多面的・多角的に問う良質な問題を期待したい。

科目名 (出題範囲名)	『歴史総合，世界史探究』
----------------	--------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能を問う問題と思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスが取られており，歴史的事象の概念的理解を基に事象相互の関連を考察させる問題が多く，共通テストの目的に沿った出題となっていた。
(2)出題範囲	3	出題範囲はおおむね適切であったが，西欧・北米からの出題が多い分，出題される地域に若干のばらつきがあった。出題時代のバランスに改善の余地がある。
(3)題材	4	多くの受験者にとって初見と思われる，文字資料，地図，グラフ，表など様々な資料が用いられ工夫が見られた。馴染みのある資料や既知の知識も問い方の角度を変えることによって新しい意味付けが出来る工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	全ての大問において世界史探究の授業や生徒の発表準備，発表場面等を想定しており，学習者の実際の学びの場面に根ざした出題であった。実際の授業にも活用できる場面設定であった。
(5)問題構成	3	設問数や配点，設問形式等は適切であった。思考力・判断力・表現力等を評価する問いが増加している分，問題のテキスト量が増加しているため，受験者にこれ以上の負担がかからないよう配慮をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	資料や問題文，選択肢を含め，文章表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適正な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の趣旨を反映した内容であり，入学者選抜の問題として適切であった。科目の特性を踏まえ，資料の読み解きや思考，概念的理解に力点が置かれていることが評価できる。

科目名 (出題範囲名)	「歴史総合」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能を問う問題と思考力・判断力・表現力等を問う問題のバランスが取られており、歴史的事象の概念的理解を基に事象相互の関連を考察させる問題が多く、共通テストの目的に沿った出題となっていた。
(2)出題範囲	3	出題範囲はおおむね適切であったが、社会経済史からの出題が多く、政治史や文化史からの出題が少なかった。
(3)題材	4	多くの受験者にとって初見と思われる、文字資料、地図、グラフ、表など様々な資料が用いられ工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	4	大問2問とも、生徒があるテーマに沿って班活動で調べた内容をレポートやパネル形式で発表するという設定であり、実際の歴史総合の授業にも活用できる場面設定であった。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。複数資料の正確な読み取りや思考を伴う問題が増加しているため、受験者にこれ以上の負担のかからないよう配慮をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	資料や問題文、選択肢を含め、文章表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適正な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領の理念に基づき、概念的理解を求める良問が多く、「歴史総合」の共通テストにふさわしい問題であった。

科目名 (出題範囲名)	『公共，倫理』
----------------	---------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や、知識・理解をもとに思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題もあり、バランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	4	一部教科書等での扱いの少ない学習事項が含まれているものの、全体を通してみれば出題範囲は適切であった。
(3)題材	4	多様な資料が出題されており、受験者が読み慣れないものもあったが、思考力・判断力・表現力等を効果的に問う工夫がされていた。
(4)問題の場面設定	4	大問ごとに主題が設定され、生徒同士、先生との会話を通して現代的な課題について探究的に学習する場面が設定されていた。
(5)問題構成	3	各設問が見開きページ内で収まっているため、受験者は問題に取り組みやすかったと思われる。教科書での取り扱いが大きい分野の配点の比重については今後の検討が必要である。
(6)表現・用語	3	全体を通して受験者が理解しやすい表現で問題が構成されていたが、一部の設問では説明や記述の表現が分かりにくいものも含まれていた。
(7)難易度	4	標準的な難易度の設問が多く、全体的な難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に適切な試験であった。今後も、基礎的・基本的な知識や概念を問うたり活用したりする問題や、対話や諸資料を通じて異なる視点に触れ、思索を深めていく場面設定を通じて、日々の学習の達成度を適切に判定できる問題となることを期待したい。

科目名 (出題範囲名)	『公共, 政治・経済』
----------------	-------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や知識・理解をもとに資料を読み取って思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題もあり、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から出題され、かつ学習内容全般にわたっていることから、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題されている資料等は特定の教科書に偏っておらず適切である。図表やメモ、記事など様々な資料が使用されているだけでなく、課題探究計画の概要が示されており、授業改善の参考になる。
(4)問題の場面設定	4	探究活動などさまざまな場面設定は、授業改善につながるメッセージ性が感じられる。大問の扉と各設問との関連性も適切である。
(5)問題構成	3	一部例外はあるが、全体として情報量は適切であり、思考する時間を確保することができた。
(6)表現・用語	4	受験者に配慮した適切な表現であり、解答の際に混乱を招くような表現・用語はなかった。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題を中心に、平易な問題から難易度の高い問題がバランスよく出題されており、全体の問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切であり、選抜に資するものである。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。高等学校の授業で活用できる題材が多く、図表や資料の内容も多彩で、思考力・判断力・表現力等を問う問題は授業改善へのメッセージになるものと思われる。

科目名 (出題範囲名)	「公共」
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、「公共」の学習を通して身に付けた知識を問う問題や、それらを活用して考察させる問題が出題されており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	政治、法、経済、倫理など特定の分野に偏らず、幅広い分野・領域から出題されている。いずれも学習指導要領の範囲内で、適切な出題であるといえる。
(3)題材	4	出題される資料等については、特定の教科書に偏っておらず、「公共」の学習で身に付けた知識や技能があれば正解にたどり着くことができ、公平性は担保されている。
(4)問題の場面設定	4	全ての大問において、授業や探究活動、講演会等が設定され、主体的な学習の過程を意識した場面設定になっている。各大問では会話文やレポート、ノート等が提示されているが、適切な分量であり、解答するうえで必要なものとなっている。
(5)問題構成	4	設問数は16問で、全体の文章量、読み取る資料の量も適切で、試験時間内で解答できる。配点や設問形式もバランスよく適切である。
(6)表現・用語	3	文章表現や用語はおおむね適切で、文章・用語の表現や表記については、意味が捉えにくいもの、誤って解釈してしまうものはなく、全般的に適切であった。小問の問いかけは、そのほとんどが3～4行以内となっていて、出題の意図も分かりやすく、受験生への負担はない。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体として難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であり、選抜試験に資するものである。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校段階で身に付けている知識・技能、思考力などの学習の達成度を判定する試験問題となっている。公正や正義等の選択・判断に資する概念や理論、社会参画に関する出題など全体的に良問が多く、「公共」の学習のねらいを十分に反映した適切な試験であるといえる。

科目名 (出題範囲名)	『数学 I， 数学 A』
----------------	--------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず，日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や，解決過程を振り返り，得られた結果を意味づける力も問うており，バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており，設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに，その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して，数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており，問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり，受験者が問題場面を理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく，使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており，適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの，育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり，全体としては，基本～標準的な難易度で構成されており，概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果，得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり，育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり，得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『数学Ⅰ』
----------------	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、解決過程を振り返り、得られた結果を意味づける力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であり、受験者が問題場面を理解しやすいような工夫がされている。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないように説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名 (出題範囲名)	『数学Ⅱ，数学B，数学C』
----------------	---------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、得られた結果を基に批判的に検討し、体系的に整理する力や見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする力、得られた結果をもとの事象に戻してその意味を考える力などが問われており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材が特定の教科書に偏っていない。日常生活や社会の事象を扱ったものは少なかったが、教科書にある基本的な知識を題材として、掘り下げていくものが多かった。
(4)問題の場面設定	4	会話文などから問題を解決するための見通しをもち、解決過程を振り返るなどして、見いだした事柄を既習の知識と結び付け、概念を広げたり深めたりする学習過程や統合的・発展的に考える学習過程を重視した問題場面が設定されており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式、問題に応じた選択肢数など、どれも適切である。グラフや図、表の配置についても、受験者への配慮が見られる。
(6)表現・用語	4	理解しにくい表現や誤解を与える表現はなく、丁寧で適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適切であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されている。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。

科目名 (出題範囲名)	「物理基礎」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められ、バランスの取れた出題であった。
(2)出題範囲	4	全ての領域から学習指導要領に基づいて適切な範囲で出題されていた。単元にばらつきはあるものの、問題数や試験時間を考慮するとよく工夫されていた。
(3)題材	4	日常的な題材や教科書でよく取り扱うような題材が多かった。初めて扱う実験についても、丁寧な問題文や図が与えられており、初見でも回答できるように工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	実験を通して探究の過程を意識した場面設定がなされていた。実験結果からの考察や与えられたデータ等から数値を処理する問題が設定されていた。
(5)問題構成	4	出題数や試験時間については適正であったが、深く思考させる問題を含めても良かったかもしれない。
(6)表現・用語	4	文章表現や用語について、全体的に分かりやすい表現で出題されていたが、一部の設問では問題文に適切な誘導があれば、受験者にとって解きやすい設問になったと考えられる。
(7)難易度	4	物理概念の理解を求められる設問が多く含まれており、基礎的な設問が中心であった。しかし、一部の設問には、物理基礎としては難易度が低いものも含まれていた。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定できる問題であり、「知識・技能のみならず、思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」という共通テスト問題作成方針のとおりであり、適切な問題であった。

科目名 (出題範囲名)	『物理』
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して考察することが求められる出題となっていた。
(2)出題範囲	4	原子分野からの出題はやや少ないが、学習指導要領の範囲を網羅する出題であり、偏りはあまりなかった。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	3	探究活動の場面を切り取った場面設定の設問は出題されなかったが、図やグラフから情報を読み取って整理する出題は多く、物理の知識の理解の質や思考力を問う場面設定になっていた。
(5)問題構成	3	良問が多いが、文章量の多さや複雑な問題構成により、深い思考を必要とする設問が多く、受験者にとって問題を解くための時間が不足したと考えられる。
(6)表現・用語	3	全体的に適切で、分かりやすい表現で出題されていた。ただ、第4問の間1における設定の説明不足やミスリードを誘発する選択肢の表現が見られた。また、第1問の間3のように、出題者の意図が読み取れないような問題文の表現も見られた。
(7)難易度	3	知識を正しく活用する力を問う良問が多かったが、複数の基本事項を組み合わせるとして正答を導いたり、深い思考を必要としたりする設問の割合が多く、全体としての難易度のバランスを欠いた。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	出題のねらいが明確で、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題であったが、全体としての難易度のバランスを見直す必要がある。共通テストの受験のみで個別試験のない受験者であっても、物理をしっかり学習していれば高得点をとれるような出題が望ましい。探究の過程を扱った出題構成はなかったが、本試験を通して受験者のつまづきやすいポイントが明らかになり、授業改善への有効なメッセージとすることができたと思われる。

科目名 (出題範囲名)	「化学基礎」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的な知識を問う問題と思考力等を問う問題がバランスよく出題されており、大学教育を受けるために必要な能力について把握することができる問題となっていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に示されている、「化学と人間生活」、「物質の構成」、「物質の変化とその利用」の各項目からまんべんなく出題されていた。
(3)題材	4	第1問は小問集合形式で、第2問は肥料として利用される物質をテーマとしていた。第2問では、身近な物質を「化学基礎」の範囲で考察することができるよう、出題が工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	化学的性質を基に物質を特定したり、検出器の信号の強さから含有量を思考したりするなど、化学の有用性を感じられるような問題となっていた。
(5)問題構成	4	第1問は小問集合問題、第2問は肥料をテーマとして、関連する物質や製法を題材とした総合問題であった。小問数は13、解答数は16であった。
(6)表現・用語	4	説明を要する問題では、丁寧かつ理解しやすいリード文が用いられるなど工夫されており、全体的に分かりやすく、理解しやすい表現となっていた。
(7)難易度	4	「化学基礎」としての難易度は妥当であると考えられる。難易のバランスが取れており、幅広い学力層を識別できる良問が多かった。
(8)得点のちらばり	4	受験者の得点のちらばりを見ると妥当であったと思われる。平均点は28.58点、標準偏差は10.60であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や題材は「化学基礎」の内容として妥当であると考えられる。化学をより身近に感じられ、基礎的な知識と思考力等をバランスよく問うことのできる、工夫された問題の作成を今後もお願いしたい。

科目名 (出題範囲名)	『化学』
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	「大学教育を受けるために必要な能力について把握すること」という目的に対して、高等学校等の段階における知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う「作成方針」に沿った内容であった。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」, 「物質の変化と平衡」, 「無機物質の性質」, 「有機化合物の性質」, 「化学が果たす役割」から幅広く出題されており、学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	4	日常生活や社会と関連付けたものだけでなく、身近な現象や身のまわりの物質を題材とした問題も出題されるなど、受験者にとって「化学」をより身近に感じられる題材となっていた。
(4)問題の場面設定	4	丁寧なリード文で受験者がイメージしやすいよう工夫されている問題がほとんどであり、受験者になじみのない物質等についても、解答するうえで必要な構造式や反応機構等を整理して示す配慮がなされていた。
(5)問題構成	4	例年と同様に、第1問から第4問までは分野別の出題であり、第5問は総合的な問題であった。基礎的・基本的な知識・理解を問う問題だけでなく、思考力・判断力・表現力等を活用する問題など、受験者の幅広い学力を測定できる構成となっていた。
(6)表現・用語	4	文章の量、グラフの読み取りのしやすさ、有機化合物の構造式の大きさなど、受験者への配慮が見受けられた。概ね、教科書に記載されている表現や用語が使用されていた。
(7)難易度	4	昨年度と比較し、設定を理解するのに時間がかかったり、思考力や判断力等を要したりする問題が整理され、難易度は適切であったと考えられる。受験者が十分に思考したうえで解答する時間を確保できたと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	平均点は 56.86 点 (昨年度は 45.34 点)、標準偏差は 23.17 (昨年度は 20.02) であり、平均点は大幅に増加した。得点のばらつきは、受験者の学力に応じて上位層から下位層まで適切に分散していた。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領に準拠した「化学」の各分野から偏りなく出題されており、幅広い受験者の「化学」に関する学力を定量的に評価できる良問が多かった。試験の難易度、分量ともに適切であったと考えられる。

科目名 (出題範囲名)	「生物基礎」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解を問う問題だけでなく、知識を活用しながら科学的な視点で思考力, 判断力を問う設問が作成されており, 全体的にバランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に定める三つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	教科書間の偏りはなく, バランスよく出題されていた。
(4)問題の場面設定	4	問題全体を通して, 学校における学習の過程を意識した問題の設定がなされていた。
(5)問題構成	4	設問数, 配点, 設問形式等はおおむね適正であった。
(6)表現・用語	3	ほとんどの文章表現・用語は適正であったが, 一部の表現において, 複数の解釈ができてしまうものや, 受験者に混乱や心理的な負担を与えてしまうものがあった。
(7)難易度	3	問題全体を通して, 難易度は易しめであった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており, 得点の散らばりは適正であったと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体を通して, 受験者の基礎的な学習の達成度を評価するための試験として適切であった。

科目名 (出題範囲名)	『生物』
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く実験考察問題を中心に、バランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	学習指導要領に定める五つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	4	資料等は特定の教科書に偏ることなく出題されていた。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていた。
(5)問題構成	4	試験問題の構成は適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(7)難易度	3	全体の難易度は適切であったが、大問ごとの難易度に大きな差が見られた。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	受験者の学力を適正に評価できる試験であった。

科目名 (出題範囲名)	「地学基礎」
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	共通テスト問題作成方針を踏まえ、基本事項の理解が問われる問題や思考力・判断力・表現力等が求められる出題となっており、バランスのとれた出題となっていた。
(2)出題範囲	3	出題内容や出題範囲については、ほぼ教科書に準じた内容から構成されており、学習指導要領に示された範囲からおおむね出題されていた。一部に「地学基礎」の範囲外である問題があった。
(3)題材	3	問題で扱った題材は、おおむね適切であった。幾つかの教科書には記載のない題材があった。
(4)問題の場面設定	4	地球環境や自然災害に目を向けるなど、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	3	選択肢数、問題数についてはおおむね適切であったが、難易度の高い問題に配点の高い問題が集中していた。
(6)表現・用語	3	一部図の読み取りが難しい表現があったものの、全体として受験者に分かりやすい表現が用いられており、おおむね適切であった。
(7)難易度	3	一部に難易度の高い問題もあり、例年と比べて難易度が上がっていた。
(8)得点のちらばり	4	高得点を取る受験者ほど正答率が高くなるような問題が多いが、得点のちらばりはおおむね適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	基本事項の理解を問う問題や、科学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題でおおむね構成されていたが、一部で深い理解を求める問題もあり、「地学基礎」の学習達成度を測るには例年と比べて難易度が高かった。

科目名 (出題範囲名)	『地学』
----------------	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	問題作成方針を踏まえ、全ての分野・領域からバランス良く出題されているが、分野によっては詳細な知識の理解を問う問題が出題された。
(2)出題範囲	3	おおむね学習指導要領の範囲内から適切に出題されているが、設問によっては詳細な知識を問われるものがあった。
(3)題材	4	教科書は1冊しかない。よって取り扱いに差が見られなかった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察・実験、野外実習にくわえ、タイムマシンを用いた架空の思考シミュレーションなど共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	4	全ての問題の選択肢数が4択であり、問題文の量や設問形式は適正であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書を基にしたもので適切であった。
(7)難易度	3	読解力を要する計算問題を含む思考力・判断力・表現力等が求められる設問に加え、分野によっては詳細な知識の理解を問う設問が見られ、難易度が高かった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地学」の学習到達度を測るため、知識の理解や思考力・判断力・表現力等を総合的に問う問題で構成されている。

科目名 (出題範囲名)	『英語（リーディング）』
----------------	--------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・技能の確実な習得と、それを活用して課題を解決する思考力・判断力・表現力等をバランス良く測るよう工夫された出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校段階で学習する範囲の言語材料・言語活動で対応できる出題で、受験者への負荷は適正なレベルである。
(3)題材	4	日常的な話題から科学的な話題や社会的な話題まで幅広く取材されており、受験者の知的関心に合った適切な題材である。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における学習の過程が意識されており、問題の場面設定はおおむね適切であった。
(5)問題構成	4	適正な分量であった。設問も多様な形式がバランス良く配置され、受験者の力を総合的に測る構成であった。
(6)表現・用語	4	文章表現は学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じ、適切なものであった。
(7)難易度	4	様々な目的や場面、状況などに応じて、概要や要点を把握したり、必要とする情報を適切に読み取ったりする力を測るために、平易なものからやや難しいものまでバランス良く出題されている。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正で、幅広い受験者層を適切に識別できる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校段階で身に付けた外国語の知識・技能や思考力・判断力・表現力等を測るテストとして適正である。実社会でのコミュニケーションだけでなく教室での学習場面にも配慮がなされており、受験者の力を総合的に測り、高等学校教育への示唆を与えるテストとなっている。

科目名 (出題範囲名)	『英語 (リスニング)』
----------------	--------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針をよく踏まえ、知識を活用したり思考力・判断力・表現力等を発揮したりする問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校で学ぶ「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「論理・表現Ⅰ」で学ぶ内容・範囲を網羅している。
(3)題材	4	特定の教科書内容に偏ることなく、日常の身近な話題から社会問題まで、幅広い分野の題材を扱っている。モノログ、二者や三者の対話、講義など、題材の場面設定にもバラエティがある。
(4)問題の場面設定	4	問いたい力を意識したコミュニケーションの場面設定に工夫があり、必然性のある形で出題されている。
(5)問題構成	3	全体を通して、設問数、設問形式等は適切であるが、負荷のわりに配点が低い設問が第5問に見られた。
(6)表現・用語	4	使用される語彙・表現はバリエーションに富んでおり、問題の質を高めている。また、多様な話者による英語を採用している。
(7)難易度	4	易しい問題と、難しい問題とが混在しているが、総合的に見ると大学教育を受けるために、必要な能力について把握する上で標準的な難易度であり、適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の分布は適正であり、選抜試験に資するものであった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に音声は聞き取りやすく、実際のコミュニケーション場面が意識された日常的な話題や社会的な話題を聞き、話者の意図を聞き取る力を測るよう作られている。学習指導要領に沿った4技能5領域のバランスの良い言語活動や思考力・判断力・表現力等の向上を目指した指導の重要性を示す適切な問題である。

科目名 (出題範囲名)	『ドイツ語』
----------------	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	知識の理解の質を問う問題や、思考力を発揮して解く問題が出題されていた。複数ページにわたって思考力を問う出題が、複数出題され、思考力が発揮できなかった可能性がある。
(2)出題範囲	3	学習指導要領には「英語に準ずる」としか記載されておらず、明確な範囲は設定しづらいが、高等学校で3年程度継続して学んだ範囲としてある程度適切である。
(3)題材	3	高等学校用の教材は存在していないため一概には言えないが、特定の教科書には偏っていないが、個人の経験に基づく知識に影響を受ける可能性がある。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がおおむねなされている。
(5)問題構成	3	文法、会話、長文読解などを含む構成であり、どこかに偏ることはないが、発音に関する出題もあっては良いのではないかと思う。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語はおおむね適切であるが、一部設問の表現に分かりづらいところがあった。過度に文法用語を避けることは望んでいない。
(7)難易度	4	3年程度継続して学習していれば、ある程度対応できる。
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	3年程度継続して学習していればある程度解答できる。設問によっては解くためにページを何度もいったりきたりしなければならず、時間を要した。

科目名 (出題範囲名)	『フランス語』
----------------	---------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	識別力の高い問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等は適正であり、現代的な話題性に富む。
(4)問題の場面設定	4	受験者にとってなじみ深いものもあり、適切である。
(5)問題構成	4	文法知識全般にわたって配列された試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	難解な表現・用語はなく、おおむね適切である。
(7)難易度	3	おおむね適正であるが、応用寄りの問題が散見される。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。

科目名 (出題範囲名)	『中国語』
----------------	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	表やグラフ等の言語材料を複数組み合わせることでバランス良く出題されている。会話や文章題の空欄補充等も重要語が使用され、思考力や総合的な判断力を問う問題となっており、おおむね適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に準じて行うものとする。とあり、範囲は明確には定めにくいですが、語句は主要辞書の重要語等を組み合わせることで使っており、3年間で学ぶ範囲としておおむね適切な出題であった。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の分野に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	4	高校生の実生活に即し、一般的な話題や身近な場面設定であり、適切である。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4問では多様な言語材料が提示されており、よくバランスがとれている。
(6)表現・用語	4	長文や選択肢も含め、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正である。受験者の特性を鑑みて今後も平均点に対して過度にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりは、受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのは致し方ない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学教育を受けるための基礎的な学習の達成度や思考力が測れる出題となっている。受験者や科目の特性に対する配慮が見られ、よく工夫されており、おおむね適切な作問がなされている。

科目名 (出題範囲名)	『韓国語』
----------------	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	2	第1問に思考力を問う問題でない出題が多い。
(2)出題範囲	2	第1問に高等学校学習指導要領の学習範囲外の知識を問う出題が複数ある。
(3)題材	4	第1問を除いて、おおむね高校生が学習する上で適切な題材を扱っている。
(4)問題の場面設定	4	適当である。
(5)問題構成	3	第1問と第4問の改善が求められる。
(6)表現・用語	4	適当である。
(7)難易度	3	全体の難易度は適当である。ただし、第1問に難易度の高い出題がある。
(8)得点のちらばり	3	高等学校における学習者がどの程度受験しているか分かりづらいので判断できない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問の改善を強く求める。

科目名 (出題範囲名)	『情報Ⅰ』
----------------	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を十分に踏まえた出題であり、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題がバランス良く出題された。
(2)出題範囲	4	全体として「情報Ⅰ」の幅広い分野・領域から出題されており、学習指導要領に基づいた適切な範囲内の出題であった。
(3)題材	4	社会や身近な生活の中の題材が多く取り上げられており、受験者にとって既知ではないと思われる資料等においては適切な説明文や図等が付されるなど、十分な工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	社会や身の回りの生活の題材が多く取り上げられており、問題解決のプロセスを重視した内容となっていた。受験者にとって理解しやすい設定となっていた。
(5)問題構成	4	出題数や配点は全体として適正であり、「情報Ⅰ」の学習内容を幅広く扱うことで、受験者の学習成果をバランスよく測定できる構成となっていた。
(6)表現・用語	4	全体として平易で分かりやすい表現が用いられており、身の回りの事象と結び付けた題材設定によって、受験者が状況を具体的にイメージしながら考察できるよう工夫がなされていた。
(7)難易度	4	基礎的な設問と思考力・判断力・表現力等を問う設問がバランスよく配置され、昨年度と比較すると平均点は下がったが、他科目の平均点と比べても同程度であり、受験者の学習の成果を測るのには適切であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	平均点 56.59, 標準偏差 15.72 であり、得点分布は正規分布に従っており、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	学習指導要領における「情報Ⅰ」で育成すべき資質・能力を適切に測ることができる問題であった。情報社会と人との関わりや情報の科学的な理解を基に考察する力を問う問題など、受験者が身に付けておくべき示唆に富む内容が多く含まれていた。